

中小型タッチパネル製造

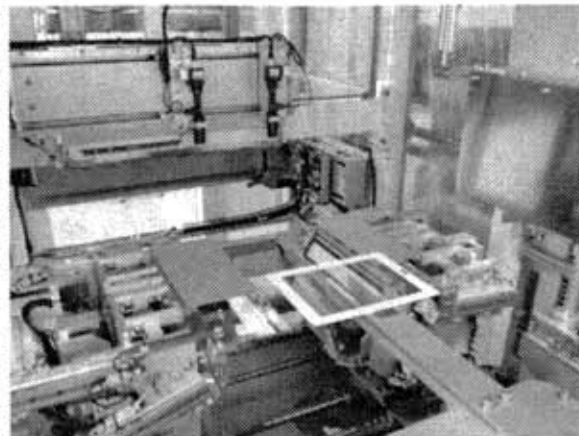
貼り合わせ効率化

F U K

FUK(奈良県御所市、植村光生社長、0745・63・0101)は、中小型タッチパネル製造の貼り合わせ工程を効率化できる技術にめどをつけ、このほど試作機を完成した。液状の光学透明樹脂製の接着剤(OCR)を使ってフィルムセンサー付きのカバーガラスと液晶パネルを貼り合わせる際、真空環境を必要とせず、工程を短縮できる。量産機の開発を進めており、11月にもタッチパネルメーカーなどに提案を始める。2016年4月期に10億円の売り上げを目指す。

対応するパネルサイズは4〜15型。7型型パネル1枚の貼り付けを約20秒で終わらせる。価格は6000万円前後と見られる。技術的には32型型まで対応可能で、90型型までの対応を目指して

真空不要、11月量産機



タッチパネル貼り合わせ機械の試作機の一部

▲……………粘度が低く、貼り合わせ後にはみ出した部分を拭き取る工程が必要だった。

「大気BEND」はガラスをそらせながらパネルと接する部分を最小に保つ「線接着」の技術で貼り合わせるため、大気下でも気泡が混入しないのが特徴。新型のOCRは塗布後の形状を維持しやすい性質があり、紫外線を当ててOCRを仮硬化

技術開発を進めている。貼り合わせ技術は「大気BEND」と呼ぶ独自の方式を応用した。複数の大手OCRメーカーと技術提携して新型のOCRを採用。装置の前半工程は同じく提携先の中

従来、OCRを使った貼り合わせは気泡の混入を防ぐために真空環境で行うが、設備が大きくなるうえ加工時間が長くなるのが課題だった。また、従来のOCRは

取工程を短縮できる。